

伐採・造林一貫作業システム IN 愛知

〔愛知所〕9月17日、絶好の秋晴れの下、段戸国有林において、伐採・造林一貫作業システム現地見学会を開催しました。林野庁、愛知・岐阜県の林業関係者、中部局、各署の職員等約190名と大変多くの参加者となりました。愛知森林管理事務所では、木材生産の作業効率の向上とコストの削減に向けて、森林作業道と先進的林業機械を組み合わせた低コスト作業に加え、さらにコンテナ苗による伐採後の植栽までを一貫した作業システムの普及・定着に取り組んでいます。また、集造材により発生する林地残材を現地で破碎し、木質バイオマス発電の原材料として利用する試みにも取り組んでいます。今回の見学会は、実際に素材生産を行っている新城森林組合の生産現場において、「先進的林業機械緊急実証・普及事業」により導入した主索ウインチ付スイングヤーダと繊維ロープによる集造材を実演しました。

全木集材により集材した材をプロセッサにて造材し、そこで発生する枝葉等については、少し離れた場所に運搬して移動式破碎機により木質バイオマス原材料用にチップ化するという、伐採から集造材、林地残材をチップ化するまでの工程を参加者の皆さんは熱心に見学していました。集材後の林地には枝葉はほとんど残らず、地拵えをせずにコンテナ苗の植栽が可能となっており、10月後半には植え付けが始まる予定です。

また、この事業地では、名古屋大学と連携してコスト分析等の調査も実施しており、低コスト造林を可能とする「伐採・造林一貫作業システム」の普及につながるよう努めていく考えです。参加者からは、「大変興味深い見学会であった。国有林が先進的にこういったシステムに取り組んでいただけると参考になる。」「枝葉等本当の林地残材に付加価値がつくバイオマスの取り組みに興味を持った。」

「いろんなテーマを持った見学会であり、ぜひ研究結果、コスト分析結果等公表していただきたい。」等、後日たくさんのアンケート結果が送られてきました。この見学会開催は、愛知森林管理事務所の今年度の重点取り組みの一つとして全所員が一丸となって取り組んだイベントであり、参加者の誘導案内等、名古屋事務所等の協力も得て実現でき有意義な開催となりました。



先進的林業機械による集材作業